

令和4年度ノーリフティングケア普及促進事業
モデル施設 実践報告会

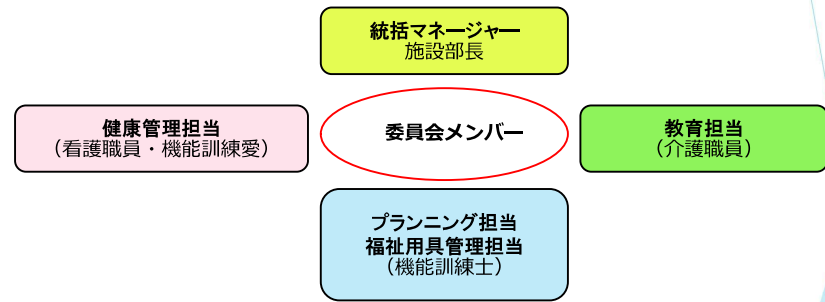


『次こそ成功
させます』

社会福祉法人 広寿会
特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑

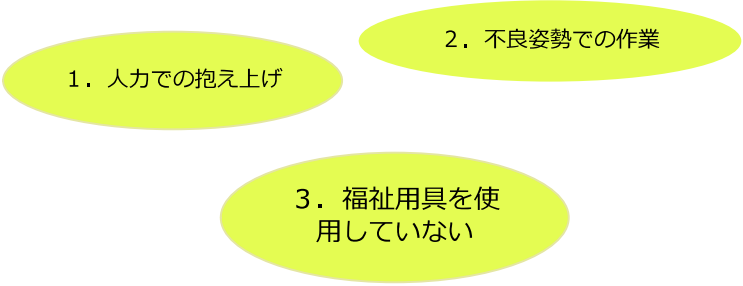
1. 組織体制

・ノーリフティングケア推進委員 4名と労働衛生士 1名で構成



※ノーリフティングケア推進委員で計画立案し、各フロア（3フロア）
3名の代表者と共同し取り組んでいる
※毎月第4週の月曜日に会議

2. ノーリフティングケア導入前の問題点



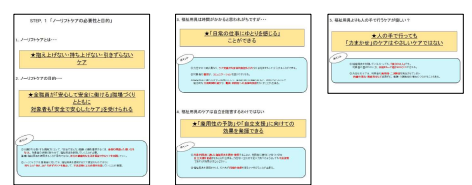
人力での抱え上げや、不良姿勢での作業が当たり前に行われており
職員の腰痛発生者も多く、利用者の身体的な負担も大きい現状であった。
また、以前からスライディングボード等の福祉用具も導入していたが
定着できておらず、今回のノーリフティングケア委員会を立ち上げ改善
することになった。

3. ノーリフティングケアで実施してきたこと

①マニュアル作成

・資料作成し、苑内研修で勉強会を行い、チェックリストによる
理解度チェックを行った。

【ノーリフティングケアの必要性と目的】



STEP, 1 「ノーリフトケアの必要性と目的」

例

1. ノーリフトケアとは…

★抱え上げない・持ち上げない・引きずらない
ケア

2. ノーリフトケアの目的…

★全職員が「安心して安全に働ける」職場づくり
とともに
対象者も「安全で安心したケア」を受けられる

ポイント

①介護される側する側両方にとって、「安全で安心な」介護・介助を提供するには、**身体の問題のない方**を
なく、労働者の健康を確保して、福祉用具を使用していくことが必要。
注意：福祉用具を使用することが目的ではなく、**双方の継続的な生活を保証できるケア**を実現していく。
②ノーリフトケアは単機材に止りて、福祉用具を使用するケア限定のものではなく、
持ち上げ、引きずり、移動を減らして、不良姿勢による作業を改善していくことが重要。

【正しい身体の使い方】



例

STEP. 2-2 自己管理:正しい身体の使い方

1. 身体に負担のかかる姿勢(不良姿勢)とは...

①中腰 ②のねり

中腰・体をひねる姿勢は絶対にダメ!!

2. 不良姿勢にならないためには

★中腰にならない・ひねらない・支持基底面の確保

①中腰にならない

しゃがむなどして、腰が**伸展**した体勢をつくり作業

※**苑オリジナル**の資料を作成。
※統一した説明ができるように、委員会メンバーで理解を深めた。

②職員への実技指導

(支持基底面の説明)



(スライディングボード)



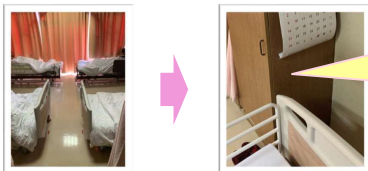
(フレックスボード)



ノーリフティング推進委員で実技指導を行った。
福祉用具を使用する場面は増えたが、**継続的な指導**が困難であり、職員によっても使用方法に違いがあり、手技を統一させることができなかった。

③ワンタッチ式ベッドへの変更と環境調整

(ベッドを動かし環境調整)



壁からベッドを離すことで無理のない姿勢で平行移乗できるようになり、腰への負担が軽減した。

各フロアで福祉用具の**待機位置**を統一することで、物品を探したりする手間がなくなり、使用する回数が多くなった。



【職員の腰痛体操】

全フロア ポスター掲示中!!



※出勤時・休憩後
インカム発信

『職員全員実施!!』

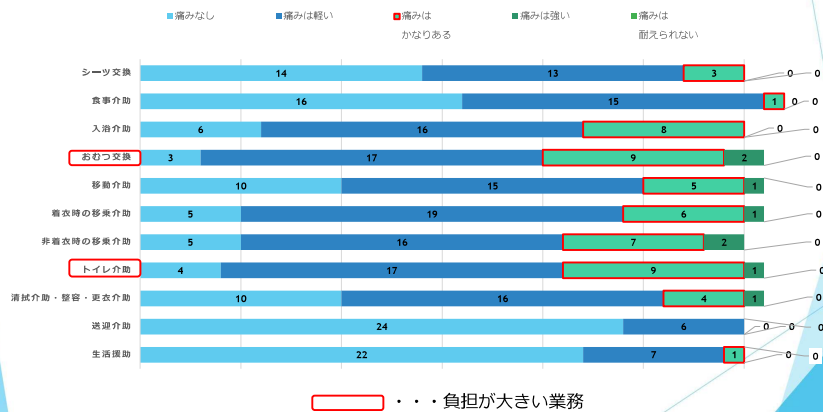
ストレッチング 20秒程度ゆっくり伸ばすことで、筋肉や関節をほぐします。



3.腰痛調査（令和4年度4・9月実施）

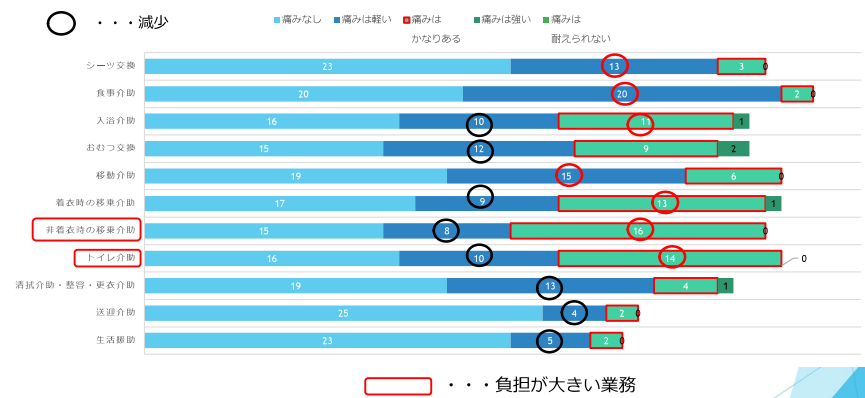
〈4月,9月の場面別での腰痛変化〉4月

〈4月実施〉【苑全体 場面別の腰痛程度】



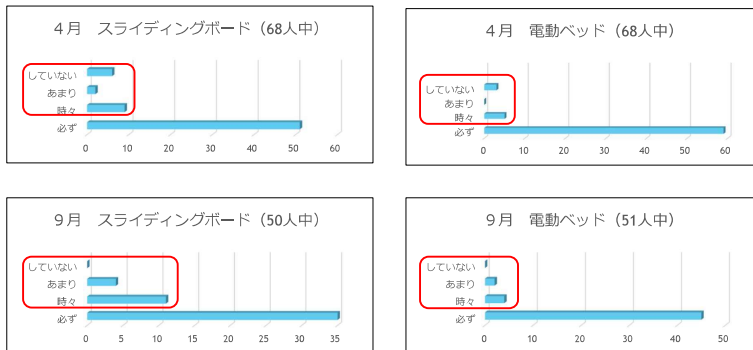
〈4月,9月の場面別での腰痛変化〉9月

〈9月実施〉場面別 腰痛の程度（苑全体）



4月アンケートと比較すると「痛みなし」割合は増えているように感じるが「かなり痛い」と感じる職員は増えている。腰痛を抱え業務にあたる職員がまだいることが分かる。

〈スライディングボード・電動ベッドの使用率〉



ノーリフティングケア導入前に比べ、福祉用具の使用率は著しく向上しているが、使用していなかったり、時々しか使用していない職員もいることが分かった。手技の統一と同時に意識的な改善も必要。

4.ノーリフティング取り組み後の変化と課題

《良い変化》

- ・ノーリフティングケア取組前に比べ、スライディングボードやフレックスボード等の福祉用具を使用する場面が多くなってきている。
- ・出勤時や休憩後に腰痛体操を行うことが習慣化できた。

《課題・反省》

- ・福祉用具を使用する場面は増えてきているが、正しい体の使い方ができておらず福祉用具の使用方も職員によってばらつきがあり、不良姿勢での使用により腰痛を悪化・生じさせてしまう可能性がある。
- ・ノーリフティング推進委員で職員の指導や周知は行っていたが、委員だけでは継続的な指導が難しく満足な結果は得られなかった。職員へ必要性や技術を浸透させる為、ノーリフティング推進委員と各フロアの役職が連携して取り組める環境を整えることが重要と感じた。今後は組織体系を明確にし、まず役職間で必要性や手技の統一性を行い、一般職も含めたチームをつくり課題に取り組んでいく。